

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4770800037
法人名	有限会社 奏和
事業所名	グループホーム あいあい
所在地	〒901-2133 沖縄県浦添市城間1-2-12 (電話) 098-870-0875
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成21年 1月28日

【情報提供票より】(平成20年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12 年 2 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	13 人 常勤 9 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 9 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリートブロック 造り
	3 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	(有) (月額の2ヶ月分 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		770 円	

(4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名	
要介護1		名	要介護2	4	名	
要介護3	3	名	要介護4	1	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	87 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南部訪問診療所 同仁病院 城間クリニック ちはる歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、閑散な住宅地の一角に位置し、近隣には地域の人々が行き交う商店街がある。ホームは3階建ての2階部分にあり、出入りには階段を使用しているが、緊急時の避難経路として滑り台を設置している。特に、代表者が3階に居住し夜間の緊急時に備えている事で、職員は利用者のケアに集中できる環境にある。医療連携も密にとられ、月2回のかかりつけ医の往診、週1回の看護師の訪問による健康チェックが行われている。長年の実績により、管理者、職員は認知症ケアに対する意識が高く個別ケアにも優れており、利用者のケアの質向上へと繋げている。又、代表者は日勤帯の職員数を増員し、利用者のケアの充実を図るなど、利用者本位のサービス実施に日々の努力と熱意が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価に対し、理念の見直し、利用者の個別ケアの充実、緊急時避難経路の滑り台設置等、具体的な改善を実践している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価の意義を理解しており、全員参加で評価に取り組んだが、職員間の認知症ケアに対するバラつきに気付いた。早速、向上シートにより自己評価してもらい個々に応じた指導を行った結果、利用者への個別ケアの向上へと繋げた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月毎に開催されている。管理者が事業所の現状、困っている事等を報告した結果、包括支援センター委員の助言により利用者の入所へ繋がった。又、関係機関や他事業所の情報を知る手がかりの場ともなっている。市は、ホームページへの掲載を提案した。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族定例会は年2回開催され、多くの家族の参加がある。参加できない家族へは議事録を送付し報告を行っている。又、管理者は「満足度アンケート」を実施し家族の苦情や意見の把握に努めている。面会時には声かけをし利用者の日常の様子を報告している。これまでに寄せられた家族の声にもその都度応え、換気や掃除などの改善を行った。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>恒例で毎年協働で作っているムービー(季節の行事)を近所に配り、挨拶を交わしている。自治会へは声かけを行っているが、協力関係を結ぶまでに至っていない。2月には、自治会のふれあいサロンにおいて認知症について勉強会、相談会を控えており、管理者は地域との連携を図る好機になる、と考えている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「みんなで助け合いながら自分らしく生き生きと なじみの中で普通に暮らす」となっている。従来の理念 について、地域で暮らすという視点が弱い、との理由 から管理者、職員は検討を重ね「なじみの中で」を理念 として新しく取り入れた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に 向けて日々取り組んでいる	管理者は、ミーティングの中で職員へ理念の意識付け を行い確認している。職員は日々のケアの中で利用者 の言葉、しぐさ等から得られた情報を共有し、理念の 実践へ向けた取り組みを行っている。(利用者個々の 過ごし方に対応する等)		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自 治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地 元の人々と交流することに努めている	毎年、敬老会には地域の民謡ボランティアによる訪問 がある。又、季節の行事(ムーチャー作り)を通し、近所 を訪問し、挨拶を交わしている。自治会へは、行事へ の参加について声かけを行っているが、未だ交流が出 来ていない。	○	2月に行われる自治会のふれあいサロンで、認知症の勉 強会、相談会に講師を依頼されており、その事をきっかけ として今後は地域住民と積極的な交流が図れるよう期待 したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評 価を実施する意義を理解し、評価を活かして具 体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員間での理解度にバラつきが見られた 為、向上シートを使用し自己評価、指導を行った後、全 員参加で評価に取り組んだ。利用者の状況に合わせ た食卓の高さ調整等、既に改善されているものもあ る。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	会議は市の担当者、家族代表の参加により2ヵ月毎開 催されている。ホームの現状、困っている事等報告を 行い、委員との情報交換も活発に行われている。包括 支援センター担当者の助言で、宅老所からの利用者を 入所へと繋げた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市の窓口へ出向き介護保険について相談を行っている。市の認知症連絡会の委員を担っている事もあり、担当者との連携により公民館で認知症啓蒙活動にも取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会定例会は年2回となっているが、今年度は1回開催されている。参加できない家族に対しては議事録を送付している。家族の面会時には利用者の状況を話し「あいあい便り」では、ホームでの生活の様子や職員の異動等について報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度アンケートで家族の意見、不満等を表せる様、対応している。これまで家族から苦情としてあがった換気、掃除について見直し改善した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで職員の離職が2人あったが、利用者への影響は見られない。介護職の定着が難しい中、管理者は、個別に不満などを聞き離職を最小限に抑える努力をしている。代わる場合は利用者との馴染みの関係を築くことを最優先している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は年2回の外部研修へ参加しており、学習した内容をミーティングで報告し、利用者のケアに活かしている。ホーム内では、事例検討、ヒヤリハット、DVDによる勉強会等を積極的に実施し、経験に応じたフォローも定期的に行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市のグループホーム連絡会を立ち上げ、他事業所との交流を通し課題について情報交換、研修を行っている。近日中に合同花見を控えており、管理者、職員のネットワーク作りの準備を進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在入居している利用者は、在宅から2人、施設等から7人当ホームへの利用となっている。入居前に本人、家族がホームを見学し数時間過ごしてもらう、又、職員が自宅まで出向き、なじみの関係を築く等工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との会話の中から、黒糖の味は産地によって違いがある事、ソーメンの茹で上がりの確認法、洗濯物のたたみ方等を学んでいる。利用者が重度化している状況の中でも一緒に調理を行う等、支えあう関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は、職員に自己表出困難な利用者の表情、感情(非言語)を読み取るよう意識付けを行っている。ひとりで居る事を好まれる方には椅子の配置等、環境を整えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者ごとケア担当者を配置し、医療関係者、家族等と話し合い意見を反映した介護計画を作成している。組み踊り鑑賞や、喫茶店でお茶を楽しむ、衣料品店での買い物等、個別ケアに活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	管理者、職員は、利用者の変化に即した支援をミーティングの中で確認しあい実施しているが、家族への報告や新たな計画作成は出来ていない。	○	介護計画は利用者の状態に応じて作成されるのが望ましいので、利用者の家族に現状を報告し、計画の見直しに繋げてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わって病院受診に付き添ったり、他施設へ入所している家族の面会時の送迎を行っている。又、行事毎に外泊する利用者には、外泊支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を尊重し、かかりつけ医を決めている。かかりつけ医の月2回の往診や訪問看護師が週1回健康チェックを実施し、利用者の状態把握に努めている。緊急時にはかかりつけ医からの医療情報提供書を持参し、病院受診等に活かしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、ケアプラン作成時に家族の意向を確認しているが、きちんとした回答は得られていない。事業所内でも方針が十分話し合われていない。	○	地域密着型サービスとして、最期は地域で、との期待が大きくなると予想されるので今後は重度化や終末期について事業所やかかりつけ医、そして家族の意向を確認し、方針や取り組みについて検討してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に関する書類等は、きちんと管理されている。利用者のプライバシーについて、ミーティングで日常のケアを振り返りお互いに気付きを促がしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居から現在までの状況の把握や表情を観察し、食が進まない利用者へは食器の工夫で摂取量の改善へ繋げたり、昼寝の習慣のある方への対応等、ひとり一人ペースを尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者の力が活かせる様、重度化が進む中でも時間をかけて調理や片づけを一緒に行っている。食事は、職員や利用者同士会話をしながら同じテーブルを囲んで和やかに行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	季節によって入浴の回数は定めているが、利用者の意向を尊重し対応している。入浴を敬遠される利用者へは声かけなどを工夫したり、入浴中は満足気な表情をされていても入浴後不快感を表す利用者へは、より丁寧な言葉遣いで対応するなど配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	室内では、風船バレーが好まれ、DVDで映画を見たり体操をし気晴らしの支援をしている。役割支援として毎年ムーチーを作り、近所へ届けている。職員と一緒に食材の買出しも行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回近場へドライブに出かけて外食し、外出先では子ども達との触れ合いも見られる。又、外出を希望される利用者と商店街へ散歩する事もある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者を事業所内に留めることは不快感を与える事に繋がるとし、日中は鍵をかけず利用者の行動を把握し、その都度対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内では年2回避難訓練を行い、連絡体制の確認や避難経路として新たに設置した滑り台も実際に使用した。近隣との協力体制作りはまだ出来ていない。	○	3月には、所轄の消防署の協力で消防訓練を予定している。(ムーチーの時期には近所の方と挨拶も交わしていることもあり)今後は地域住民を巻き込んで、利用者が安全に避難できるような体制作りを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事や水分摂取量、体重チェックを実施し、状態の把握に努めている。利用者の多くに口腔機能の低下が見られ、職員は、調理方法や食事支援に工夫し対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の居間に置かれたソファへは利用者が集い、代表者は新聞の読み聞かせを行っている。又、ひとりで過ごせるスペースも確保している。水槽では魚を飼い、目を細めて眺める利用者の姿も見られた。ベランダでは季節の草花を育てている。書棚には本やDVDが収納され、鑑賞用としても利用されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真や洋服が壁にかかり、整理棚には衣類が収納されている。居室内には小さなテーブルが置かれ、家族が気軽に利用者と過ごせる様工夫されている。		